

令和6年度 松陽高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課題	目標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上(法令の遵守、服務規律の徹底)	教育公務員であることの自覚を深め、生徒、保護者及び社会から信頼される高い倫理観をもった行動をとる。	(ア)公務外非行防止に関する具体事例に基づく校内研修会等を実施した。 (イ)朝の打合せ時に事例を教職員に伝え、不祥事防止に対する意識喚起を行った。 (ウ)面談時管理職による全教職員への個別指導を実施した。 (エ)職場の同僚性を高め、教職員間で気付いたことを言いやすい環境づくりを推進した。
職場のハラスメント(パワハラ・セクハラ・マタハラ等)の防止	常に相手との関係性を念頭に置き、自覚を持った言動をとり、ハラスメント行為を許さない・見逃さない職場環境を整備する。	(ア)ハラスメントの内容や事例、対応の仕方について、朝打合せの中に研修時間を1週間連続で設け、理解を深めた。 (イ)職場内での適切な職務遂行のために、各個人の行動を振り返りヒヤリハット事例などを共有し、自分事として捉える機会をつくった。 (ウ)教職員の人権意識を高め風通しの良い職場環境の醸成に取り組んだ。
生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	職員一人ひとりが人権感覚の醸成に努め、セクハラ・わいせつ行為の根絶を図る。	(ア)電子メールやSNS、LINEなどを利用した生徒との連絡を行っていないことを再確認した。 (イ)わいせつ・セクハラ行為防止の具体策、携帯電話や電子メールの不適切使用の防止及び生徒に対する人権に配慮した言動に関する校内研修を継続して行った。 (ウ)教科準備室の適切な利用の徹底を継続して教職員で取り組んだ。
体罰・不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重し、信頼関係を基盤とした生徒対応に努め、体罰、不適切な指導を根絶する。	(ア)体罰や威嚇行為の防止に関する研修を行い、体罰によらない指導の理解を深めた。 (イ)教職員の相互チェック体制を整え、継続して必要な声掛け等を行った。(通年) (ウ)体罰及び不適切な指導を防止し、生徒の人権を尊重した適切な指導が行えるよう、教員と部活動インストラクタ一等の外部との指導者間の情報共有を図り、連携して指導を行った。(通年) (エ)適切な部活動指導について、教職員が顧問会議や研修会を通して理解を深めた。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに関しては、生徒の将来につながる業務であることを常に意識し、適切な処理を行い事故の根絶を図る。	(ア)入学者選抜制度に対応した本校に適したわかりやすいマニュアルを作成し、全職員に周知した。各業務の開始前にその都度ポイントを確認し、入学者選抜業務における事故防止を徹底した。 (イ)毎学期末に全職員による成績個票一斉点検を徹底し、成績処理における事故の未然防止に務めた。 (ウ)3学年団及び担当グループにより調査書等の点検を複数の教員で複数回行うとともに、管理職による確認を徹底し、進路関係資料の作成及び取扱いに係る事故防止に努めた。

個人情報の管理、情報セキュリティ対策	個人情報の適切な管理、取り扱いに努め、個人情報流出等の事故を防止する。	(ア)ICT研修会を通じて、情報機器の活用と個人情報の保護の研修を繰り返し行い業務の中での意識を高めた。 (イ)外部講師を招いて、情報機器を用いた成績処理等における個人情報に係る不祥事の事例をもとに、自分ごととして捉える機会を設け、意識を高めた。 (ウ)学校で起きた身近な事事故例を通して繰り返し注意喚起を行った。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故及び酒酔い・酒気帯び運転による事故を未然に防止する。	(ア)新聞報道等の身近なところで起きた事故事例を共有した。私生活における公務員としての自覚をもった行動に対し、教職員の意識を高める研修を行った。 (イ)不祥事防止研修の中で教職員全員に繰り返し注意を促し、教職員の理解を深め意識を高めることができた。
会計事務等の適正執行	適正な経理処理の手順について理解を深め、公正かつ透明な会計処理を実現する。	(ア)私費(部活動費を含む)会計に関する校内研修を行い、会計処理の適正な流れを確認した。 (イ)顧問会議を通じて、部費の徴収、通帳管理、執行・決算報告の適切な業務の遂行を、顧問教員に徹底した。 (ウ)行事の会計処理は、教職員が共通理解をしたうえで、会計担当教職員から生徒への指導を徹底し、適正な処理ができた。
業務執行体制の確保	諸業務の遂行において、マニュアルやルールを遵守し、情報の共有を図るとともに相互チェック体制・業務協力体制を徹底する。	(ア)業務執行体制について、不祥事防止会議で業務の点検・見直し・分担等の整理を行った。 (イ)校内会議の効率化を意識して、ペーパレス会議を試行した。 (ウ)各業務マニュアルの整理と業務の精選を行った。 (エ)職員が集中力を維持して業務を遂行できる環境整備を意識して行い、不祥事の未然防止に全職員で取り組んだ。

○ 令和6年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和7年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

令和6年度は、不祥事ゼロプログラムの目標および行動計画は職員の不祥事防止に対する意識も高まり概ね達成することができた。しかし、県内での不祥事は相変わらず後を絶たない状況である。不祥事の根絶に向けては、今後も教職員の同僚性を高め風通しの良い職場環境つくりを通して継続して粘り強く取り組んでいく。

令和6年度は、ICT機器の活用研修を個人情報の保護に触れながら教職員を対象に繰り返し行ってきた。外部講師による「ICTを活用した業務における不祥事防止」研修で、講義と演習の事例を通して自分事としてとらえさらに意識を高めることができた。「生徒に対するわいせつ・セクハラ防止」について、ハラスメント全体の理解を促すために、朝打ち合わせ後10分程度の研修を1週間継続して行い、事例の問題点と解決方を教職員一人ひとりが考え、不祥事防止の理解を深めることができた。また、教育長からのメッセージや教育委員会からの情報等を通して、繰り返し事例に対する問題点を再確認し意識を高めることができた。教職員の職場でのヒヤリハット事例を共有することで不祥事防止に対する意識喚起ができた。

令和7年度は、今までの取組を踏まえて、一人ひとりが「絶対に不祥事を起こさない」という強い意志をもって行動するとともに風通しのよい職場環境整備を全教職員で組織的に取り組み、『不祥事ゼロ』を推進していく。